

きふ政治塾 才4回講座レポート

〔才工部〕 塾番032 近藤秀一

依田先生のご講義は実務の最先端の詳細な内容で、たいへん勉強になった。

まず、500事業ぐらいの地域に年間1兆円の予算があるが、それは限度のあるものだから、熱意を持って陳情に上がらなければならぬことをご教示いただいた。

陳情の声を届けて良いタイミングは、例年5月から6月迄に実行をするべきであること

ご教示いただいた。6月からは予算編成作業が始まるとのことであった。

岐阜県は海上輸送が使えないため、とくに中山間地が8割であり、道路インフラを積極的にやらなければならぬ。ただし、トンネルに関しては、5km完成させるのには、5年の時がかかるとのこと。

とくに、首長は野務省に直接陳情をし、その折には大臣、副大臣、政務官と共にあいなつて行くべきであることをご教示いただいた。

[才五部]

松下政経塾の塾頭の金子先生からは、塾の創立者の松下幸之助さんの考え方や人柄を詳細にご講和をいただいた。

とくに印象に残ったのは、塾主が最も大切にしていたことは、人は運が良いことと、愛嬌があることの必要性を唱えていたことだ。

世の中、広くていろいろなことがあるので運が良いことは、世々たいに必要であるし、愛嬌が良ければ、他者の心をなごませること

ができるので、これも必要なことであると考ええる。

もう一つ、塾主が大切にしていたことは、素直な心を持つことの必要性を唱えていたことだ。

リーダーになる人は、素直な心を持って、たくさん人の話を聞いて最終決断をするべきであるということと、リーダーは人の心に火を灯すことも重要であるということだ。